

推薦文—③ 三好太郎氏（1991年経済学部卒，三菱ガス化学）

第2期・ミニ MBA 塾を受講した三好と申します。私は91年経済学部卒ですので、募集要項にある理工系ではないのですが、東京六甲クラブのメールマガジンかホームページを見て関心を持ち、「文系ですけどいいですか？」と問い合わせ、受講許可を頂いた者です。

月に1回、補講もありますので、だいたい出席できましたが、出張や会議等で出席できない月もありました。それでも、一年間、大住先生と塾の仲間と楽しく学ぶことができました。

大住先生はプロフィールにあります通り、サラリーマン生活を長くやられた方です。若い頃にバークレーでしっかり理論を身につけて来られ、それを活かした仕事を残して来られた方です。私は、そういう方の話を聴きたかったのでこの塾に参加しました。

私たちの普段の仕事の中で、理論と現実がマッチしないことは、実際にあると思います。その時、マッチしないことについて「しょうがないな」と妥協し、思考を停止してしまうだけなのか、「本来はこうあるべきだ」と自分で理論を元に現象を整理して、いつかはその矛盾を解消すべく、力をつけていこうとするのかで、同じ仕事を続けるにしても違って行くのではないかと思います。

大住先生もサラリーマン生活の中で、そういう矛盾をたくさん経験されてきたと思います。私は、そういう人生の先輩から理論とナマの話を学びたいと思い、塾の扉を叩きました。

MBA の理論は会社をとりまく様々な現象を腑分けするツールだと思います。

ツールをうまく使いこなした事例を知りたいと思っていました。

期待以上に先生からは多くのご示唆を頂き、また塾の仲間の煩悶を知ることでもでき、有意義な一年を過ごすことができました。

実は今、転勤でニューヨークにおります。日系企業ですので、会社の仕組みはニューヨークにあるとは言え、日系企業の仕組みで動いています。ロジカルに物事が決まることよりも、空気が支配する日系企業であることに変わりはありません。そんな中での「おや、おかしいぞ」を感じながら、先生から頂いたテキストの英語版を、朝、出社時に少しずつ読みながら学びを継続しています。

とっぴりと会社に浸かっている方に、違う視座を与えてくれるミニ MBA 塾をお薦め致します。